

## 発刊にあたって

熊本県は、九州のほぼ中央に位置し、九州中央山地を中心とした山岳地帯や阿蘇の雄大な草原地帯、ラムサール条約湿地である有明海の荒尾干潟や天草の島々など、多様で豊かな自然環境が形成され、数多くの野生動植物が育まれてきました。

しかし、近年過疎化や高齢化に伴う里地里山の荒廃、外来種の侵入、さらには地球温暖化による気候変動など、野生動植物を取り巻く環境は大きく変化してきています。そうした中でかつては身近に見られた野生動植物の中にも、絶滅のおそれが生じているものもあり、生態系への影響が懸念されています。

こうした自然環境への意識が高まる中、県では、野生動植物の現状を把握し、貴重な財産である豊かな自然を次世代に引き継ぐため、平成 10 年（1998 年）に野生動植物の生息状況の調査結果をとりまとめた「レッドデータブックくまもと」を発刊し、さらに平成 21 年（2009 年）には、改訂版を発刊しました。その後の調査等により新たな知見の蓄積が進んだことから、この度「レッドデータブックくまもと 2019-熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物-」を発刊する運びとなりました。

レッドデータブックは、県内の野生動植物について絶滅のおそれの程度によりカテゴリー区分しているほか、種ごとの生息生育の状況等について記載しており、野生動植物の保護に取り組むうえで必要不可欠な資料となっています。

本書の発刊により、広く県民の皆様が野生動植物や自然環境への理解を深め、また各種事業者における生物多様性の保全の資料として活用され、自然環境保全への取組がさらに進んでいくことを願っております。

最後になりましたが、発刊にあたって永年にわたり現地調査から種の選定、本書の編集・執筆にご尽力いただいた熊本県希少野生動植物検討委員会、ならびに文献や写真の提供にご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和元年（2019 年）12 月

熊本県知事 蒲 島 郁 夫